

第40回センシングフォーラム計測部門大会報告

篠原 寿 広*

* 近畿大学生物理工学部 和歌山県紀の川市西三谷 930
* Faculty of Biology-Oriented Science and Technology, Kindai University,
930 Nishimitani, Kinokawa, Wakayama, Japan
* E-mail: sinohara@waka.kindai.ac.jp

JL 0002/24/6302-0117 ©2024 SICE

令和5年8月31日、9月1日、高知工科大学永国寺キャンパスにて、第40回センシングフォーラムを完全対面にて開催した。高知工科大学での開催は、2020年に予定されていたが、新型コロナウイルスの流行によりオンラインでの開催を余儀なくされ、大会長の栗原徹先生（高知工科大学）のご尽力により、3年越しで開催することができた。計測部門の年次大会であるセンシングフォーラムは今年で第40回の節目の年を迎え、参加者は120名を超え、53件の口頭発表、23件のポスター発表が行われた。今年も、センシングフォーラム恒例のランチョンミーティングも行うことができ、実に4年ぶりのフル開催となった。

特別講演は高知工科大学理工学群教授の全卓樹先生より「量子情報操作いくつかの話題」と題し、量子暗号、量子検索などについてわかりやすく解説いただき、量子技術のもつ革新性を改めて考えさせられた。計測という観点からは量子重力センサについても解説いただき、たいへん勉強になるご講演であった。

ポスター発表「SICE 四国支部・電気学会計測技術委員会連携ポスターセッション（若手部門）」は、昨年に引き続き、電気学会計測技術委員会様と連携させていただくとともに、今年もSICE 四国支部とも連携させていただいた。本ポスターセッションは、学生を中心とした発表であるが、たいへん熱心な意見交換が行われていた。

ポスターセッション後のランチョンミーティングには、40周年を祝い、高橋桂子 SICE 会長、結城義敬 SICE 事務局長も駆けつけてくださった。ランチョンミーティング内での表彰式では、ポスター発表優秀賞、計測部門論文賞、センシングフォーラム研究奨励賞の表彰が行われた。ポスター発表優秀賞は、学生の発表が審査の対象となり、ポスターセッション終了後、すぐに審議し選出される。計測部門論文賞は、前年に SICE 論文誌および JCMSI へ掲載された論文を対象に計測部門において審議され選出される。研究奨励賞は、前年度のセンシングフォーラムにて口頭発表された、35歳以下の発表者に対し、センシングフォーラム運営委員会により審議が行われ選出される。

また、本年度は、40周年を記念して「計測のこれからの10年～センシングフォーラム50周年に向けて～」

と題し、計測部門をはじめ、SICE において長年ご活躍されてこられた馬場充先生（茨城大学名誉教授）、本多敏先生（慶應義塾大学名誉教授）、安藤繁先生（東京大学名誉教授）、小林彬先生（東京工業大学名誉教授）を講師に迎え、計測の今後について考えるミニシンポジウムを開催した。講師の先生方には、これまでのご研究をご紹介いただくとともに、学生や若手研究者へエールをいただいた。先生方の研究対象の本質を見抜く洞察力や、研究に対する情熱の一端に触れ、たいへん感銘を受けた。また、小林先生から、今後の計測の進展についてご講演いただき、計測こそが新しい社会になくなくてはならないものであり、計測に携わる者として誇りをもつべきであると、勇気づけられるメッセージをいただいたように思う。

センシングフォーラムでは、オープン SICE 支援金などを活用させていただきながら、センシングフォーラムの活性化を図っている。本年度は、40周年を記念し、学生、若手研究者を対象に、センシングフォーラムにおいて発表いただいた研究を発展させ、SICE 論文誌および JCMSI に掲載される論文の掲載料を半額割引くキャンペーンを行っている。また、来年度に向け、学生や若手研究者を支援する新たな取り組みも議論されている。来年度は長崎大学での開催を予定している。会員の皆様には、ぜひセンシングフォーラムにご参加いただき、一緒に盛り上げていただけたら幸いである。

(2023年12月22日受付)



写真1 ミニシンポジウムの講師の先生方（左から馬場先生、本多先生、安藤先生、小林先生）